

表題：第 82 回 DSC 勉強会

日時：

2014/5/13 (火) 10:30～12:00

場所：

三菱総合研究所 大会議室 D

1. 議題

1) 部会報告

①システム部会

- ・ 3 月は部会開催をしませんでした。
- ・ 4 月 17 日に部会開催いたしました。
- ・ 公共情報コモンズとの連携について議論を進めています。
- ・ システム部会の幹事が代わりましたのでご報告いたします。

退任)

富士フイルム イメージテック(株) 喜多村 真 氏

三菱電機(株) 小坂 英明 氏

↓

継続)

パナソニックシステムネットワークス 清水 健太郎 氏

新任)

NTT アイティ株式会社 濱中 慎一 氏

- ・ 次回勉強会は 5 月 15 日を予定しております。

②プロダクション部会

- ・ アワード作品絶賛募集中です。
締め切りは今週末！今週末で締め切りです！
皆様のご応募をお待ちしております。

③国際標準戦略部会

- ・ 4 月 9 日に部会開催を致しました。
- ・ 5 月上旬寄書準備
 - －H. DS-DISR：勧告化合意予定 2 件寄書予定
 - －HSTP. DS-UCIS：承認予定 4 件寄書予定
- 現在実施の DSC 審議（メール審議）後、TTC 国内審議を経て 6 月中旬、提出予定
- ・ ITU-T SG16 札幌会合について
概要

2014年6月30日～7月11日/札幌コンベンションセンター

出席者数：約200名（MPEG国際会議との同時開催分除く）

皆様のご参加をお待ちしております。

④ユーザーズ部会

- ・ 公共情報コモンズとの連携について
部会内やシステム部会との話し合いを進めています。
- ・ 6月中旬のDSJに向けて昨年発表いたしました
「大規模災害におけるデジタルサイネージ運用ガイドライン 改定案」の
最終的なつめを行っています。
- ・ 次回部会は5月末に予定しています。

⑤マーケティング・ラボ部会

- ・ 3月21日に部会開催をいたしました。
-サイネージ成功のX箇条 入稿が終わりました。
6月11日～13日のDSJで発表予定です。
- ・ 内容は8項目
 - 巻頭 中村伊知哉理事
 - 2項目 サイネージ動向 (株)三菱総合研究所 中村秀治 様
 - 3項目 DSのビジネス分類 シスコシステムズ(合) 築瀬 様
 - 4項目 商業施設におけるおもてなしサイネージ (株)オリコム 吉田様
 - 5項目 第三分野のDSの戦い方 富士フイルムイメージテック(株) 三瀬様
 - 6項目 モバイルアプリ+サイネージ=近未来のオムニチャンネル 江口理事
 - 7項目 デジタルサイネージ成功のX箇条 jeki 山本様
 - 8項目 あとがき 東急エージェンシー 菊井様

2) ゲストプレゼンテーション

常務理事 江口理事プロデュース

①ゲストプレゼンテーション1

「体験型デジタルサイネージへの取組みと
新たなエンタテインメント体験のご案内」

プレゼンター

株式会社テレビ朝日クリエイト

営業戦略室 室長

中野 治 氏

テレビ朝日クリエイトは、テレビ局の制作を通じて培われた技術とノウハウをもとに、サイネージ分野においても、新たなエンタテインメント体験をご提供すべく様々な技術開発、制作を行っております。

今回は、新たに海外会社との提携による体験型デジタルサイネージのご案内をさせていただきます。

- ・テレビ朝日クリエイトは、UKの先進クリエイティブ集団、「アップシェーカー」社のAR、3D技術を確保。最先端のデジタルアート応用技術による、様々なプロモーション、ブランディング、ライブエンタテインメント等の企画、開発、運用の提案をしている。

—【参考映像】—

- ・AR、3D技術が核にある。
クリエイティブプロダクションまで一括したソリューションを提供する。
- ・高画質 AR 映像体感システム=Appshaker Broadcast AR
高画質にこだわっている。
今まではHD映像で展開していたが、4Kの制作も始めている。
イギリスで行われたカンファレンスで
「ベストARマーケティングストラテジーアワード」を受賞

—高画質大画面の映像との没入体験

最高で7mの大画面を実現

16:9 320inch

来場者がCGや実写映像と「共演」ができる体験型映像システム。

ーブランド・コンテンツの利用が可能

BBC やナショナル・ジオグラフィック、ギネスブック等、
放送クオリティのコンテンツ（動物や恐竜、気象現象、キャラクター等）の
ライセンス利用が可能。

ーキャラクターやアイドル等のオリジナルコンテンツを制作も可能。

ー比較的広いゾーニングがとれる場所に適しており、集客効果を実感できる。

約 10m×10m

例) アトリウム、博物館、ショッピングモール、イベント・スペース、
屋外、屋内サイネージメディア、全国ロードショーが行えるイベント等

【事例】

コカコーラの CSR、メルセデスベンツ、などの AR カタログ

映画「ウォーキング with ダイナソー」キャンペーン

ユニバーサルスタジオ

・BBC 「フローズン・プラネット」DVD販促イベント

ニューヨーク・シカゴ・サンフランシスコのショッピングモール

・ギネスブック世界記録の更新紹介映像 体験キャンペーン

観客がサイネージに集中して目を放さない。没入感がある。

ギネス記録などに残る映像をCG化している。

画面の中に恐竜や魚が自分と一緒に写っていて、

写っている自分もCGで表現されるので、画面の映像にリアリティがある。

・コカコーラ協賛+WWF（世界自然保護基金）北極温暖化訴求CSRキャンペーン

温暖化について伝える。

氷をひとつのマーカーとして捉えている。

10m×10mの大きさで展開

1台カメラを配置し、サイネージ画面にキャプチャーをしている。

・ナショナル・ジオグラフィック・チャンネル 視聴促進キャンペーン

画面の中の恐竜がインタラクティブに動く

画面に映る自分の動きの合わせてくれる

・インスタレーション

豹やダイナソーなどサイネージに写っていた映像はかなりポリゴン数の多いもの。

滑らかな動きができる。

- ・ユニバーサルスタジオ（フロリダ）チケット販売広場
待ち時間を楽しめるようにサイネージを配置。
来週から展開を予定。
- ・テレビ朝日クリエイトのご支援内容
企画、構築、運用、制作

②ゲストプレゼンテーション

「全米放送機器展 NAB2014 から見るデジタルサイネージの今後」

プレゼンター

デジタルサイネージコンソーシアム常務理事

合同会社江口靖二事務所代表

デジタルメディアコンサルタント

江口 靖二 氏

世界最大の放送機器展である NAB に参加してきた。デジタルサイネージは放送業界、放送機器に大きく影響されるのだが NAB における 4K などの最新状況から、日本のデジタルサイネージに与える近未来の影響を考察する。加えて、アメリカにある常設の 4K サイネージ事例も紹介したい。

■NAB2014

- ・8K（NHK ではスーパーハイビジョン）
5月30日～6月2日 NHK の技研公開がある。
- ・8K 小型カメラヘッド アストラデザイン製
小型化が進んでいる。去年はスタジオに大型のカメラが必要だった。
機動性が劇的に変わる。
8K ですら、これだけ進歩している。デジタルテクノロジーのスピード感がすごい。
放送だけの話ではなく、デジタルサイネージも見誤ってはいけない。
- ・ソニー4KXDCAM メモリーカムレコーダー
業務用の 4K カメラ。特殊な大容量のメモリー。
販売価格：64 万円
- ・ソニー4K ハンディカム
販売価格：20 万円

- ATOMOS

4K モニターレコーダー

デジカメの上にフルHD モニターを取り付け、録画は4K ができる。

販売価格：1995 ドル

最近一眼レフカメラで4K が撮影できるものが続々発売されている。

それを利用して動画が取れる。商業的な映画を撮るなどはないかと思うが、DS の素材を撮るときに、D800 や5D などのデジタル一眼と組み合わせれば十分に機動性も高く、画質もよく、非常に価格も手ごろに動画撮影環境が得られる。

日本ではあまり出てきていない。

- 放送とデジタルサイネージ

デジタルサイネージだけのために機材は出回らない

放送かweb の世界にひっぱられる。

- 日本の4K 放送

6月2日～ 衛星、ケーブルテレビ、NTT ぷらら で4K の試験的放送をする。

- フランスの4K 放送

NAB に出展。

メーカー・電話会社・学校が産官学共同で4EVER コンソーシアムを立ち上げている。

2つの取り組みをしている。

① ネットで4K を配信

② 4K の放送（主に地上波）

HTML5 ベースのブラウザで4K をブラウジングする。

コンテンツはMpeg ダッシュユですることによって、メタデータをいれて

マルチスクリーン（スマートフォンなど）に出し分けられる。

ネット環境が多少悪くても、コンテンツ動画をデリバリーすることができる。

日本の放送は違うものを使っているが、世界では4K の放送をDVB-T2 で準備している。

- NTT+NEC

4K60P HEVC 6月の4K 実験の肝になる

リアルタイムエンコーダー

- 日本のテレビ局内

4K 放送の準備ができ始めている。

- ・ソニー 4K ライブソリューションエリア
今までは完パケ映像が出来るのみだった。
4K ライブ環境を提案。難易度が高い。
現場での伝言システムの構成。マネージャシステムのすべてが IP の中で完結する。

放送も 4K に向かっている。サイネージもそれに引っ張られていく。

- ・韓国 KBS = 日本で言う NHK (韓国は他の局も出していた)
きちんとアナウンスはしていないが、地上波 4K は今年 12 月から始まる。
DVB2 方式で通常の地上波での放送が可能。
(日本はワンセグ放送など割り振りがある)

■4K サイネージ

- ・放送のワークフロー

撮影 ok

編集 MA ok

伝送 (4K 放送は、今までここが問題、地上波ではできない)

表示 (超解像) ハードの開発は進んでいる。

日本は地上波では放送できない、しようとしていないと思われる。

日本の映像ビジネスは地上波テレビ局が中心となって人もお金も動かしているため、ここが動かないと 4K ビジネス及びそこから派生するサイネージを含めた様々なビジネスが進まない。

- ・日本のテレビ

テレビは超解像を進めている。フル HD の信号を受けて、端末側で情報を 4 倍にデジタル技術で補うという技術。街中の販売している 4K テレビすべてについている。ピュア 4K 信号を表示するのと HD 信号を 4K にアップグレードして表示するのではもはや差がほとんどわからないくらいに到達している。

制作側も 4K 放送の準備 ok

ハードも整っている。

伝送の問題で地上波が使えない。4K の動きが止まる？

端末から性能が進んでいるため、無意識に 4K 化が進みそう。

放送側が一切投資をしなくても、事実上届けるようになりそう。

- サムスン

Galaxy S5

3840×2150 の撮影が可能。iPhone はまだできない。

- コンシューマー製品はすべて 4K へ

ここ何年か、コンシューマー製品のほうが先に性能を上げて追いつくように放送機器の開発がすすむ。

地上波放送はフル HD でもない放送だが、端末の超解像によって 4K に近い映像を消費者はみることになる。デジタルサイネージもおのずと 4K 化が進んでいく。予想では 2017 年にはすべてのサイネージが 4K に対応していないとアウト。

- 今ある常設 4K サイネージ

世界で 2 箇所

-ラスベガス マッカラン空港

LG の持ち込み媒体では？

世界ではじめと思われる

-デルタ航空 Skyclub (シアトル)

観光案内、オリンピックの映像放送

80inch

-羽田空港国際線ターミナル

4K サイネージではない

出国後エリア 145 ゲート付近

16K

設置方向が真横なので視線にあっていない

インタラクティブ画面

- まとめ

スマホに 4K カメラは必要か

iphone に Retina ディスプレイは必要か

これが 4K サイネージの答えです。

3) 事務局より報告

- ・次回勉強会の日程

日時：2014年5月13日(火) 10:30-12:00 勉強会

会場：株式会社三菱総合研究所 4F 大会議室 CD

- ・懇親会のお知らせ

日時：2014年6月17日(火) 12:30-14:00

会場：春秋溜池山王

東京都千代田区永田町 2-11-1 山王パークタワー27階

会費：3,000円

以上